

ガーナは子どもたちの明日が輝くように全力投球する場所
～自分の揺るぎない想いを信じて～

つい先日の土曜日、アクラ日本語補習授業校で国際協力についての特別授業をさせていただきました。きっかけは「NGOについて知りたい」「国分先生はどうしてガーナに来たの。」と言う子どもの声でした。特別授業の開催が決まった夜に目を腫らすほど大泣きしました。この一か月近くどうしようもなくしんどい時期でした。妄想から疑心暗鬼となり、もしかしたら私はここでは必要とされていないのではないかと、一度悪い方へと考え出し始めたらそのネガティブ思考は加速し、抜け出せない迷路に迷いこんでしまったかのような、または真っ黒い闇の中で灯を求めてもどこにも灯を見つけ出すことが出来ないうでいました。抱えていた不安と怒りと不信感が涙となって一気にドボドボとマグマのようにあふれ出し泣き腫らしました。「泣いた後に残るのは本質だけ。ガーナ愛とそこにいたいという想いだよ。」と友だちにいわれました。久しぶりに大泣きし、泣きながら見たのが、2013年に取材を受けた（こんなところに日本人）の動画でした。私のガーナに対する想い、ガーナ愛がたんさん詰まっていました。私の揺るぎない想いがありました。【ガーナは子どもたちの明日が輝くように全力投球する場所】今日よりもちょっとだけ明日が輝けるように。学童保育指導員時代、保護者がお迎えに来た子どもにさようならのあいさつをする時「さようなら。また明日ね。」と明日また会おうねという想いと（明日は今日よりもいい日になるように）という想いを込めて言っていました。子どもたちの輝いている明日を届けたいという想いは日本にいた時も今も変わらない揺るぎない想いとしてあります。それを改めて気づかせてくれたのが（こんなところに日本人）の動画でした。6年前のせいじさんも私は若いなと思いました。「気持ちは変わっていないと思うよ。」これも友だちの言葉です。そう、6年前の気持ちと変わってはいません。むしろ、あれから6年の間、怒って泣いて笑って転んだら起き上がり、必ず何かをつかんで起き上がるようになってきた分、自分の揺るぎない想いを信じていることが出来るようになってきました。その自分の想いを45分の限られた授業で子どもたちに伝えることが出来たらと思い丁寧に進めていきました。（こんなところに日本人）はもちろんの事、スプートニクの日本スタッフが作成してくれたそろばん教室の動画やスプートニクの活動紹介、チャリティコンサートでのガーナ挨拶 2017。自前のちいさなパソコンの画面を真剣に見入る12の瞳のまなざしは普段補習校では見ることが出来ないのでした。貴重な時間をいただき特別授業【国際協力 教育支援の現場から～自分の揺るぎない想いを信じて～】が出来たことをたいへんうれしく思いました。夏の一時帰国の時に行う（ガーナにいる国分敏子先生のガーナの話）とはまた違う（私を知っているけど私のことを知らないから知りたい子どもたち）にする授業は私自身たいへん勉強になりました。

2019年5月14日 國分敏子
ガーナ挨拶 No 26